

人間椅子

江戸川乱歩

奥様、

奥様の方では、少しも御存じのない男から、突然、このよう此様な無躰ぶしつけな御手紙を、差上げます罪を、いくえ幾重にもお許し下さいませ。

こんなことを申し上げますと、奥様は、さぞかしびつくりなさる事で御座いましょうが、私は今、あなたの前に、私の犯してきました、世にも不思議な罪悪を、告白しようとしているのでございます。

私は数ヶ月の間、全く人間界から姿を隠して、本当に、悪魔の様な生活を続けて参りました。もちろん勿論、広い世界に誰一人、私の所業を知るものはありません。若し、も何事もなければ、私は、このまま永久に、人間

界に立帰ることはなかったかも知れないのでございませす。

ところが、近頃になりまして、私の心にある不思議な変化が起りました。そして、どうしても、この、私の因果な身の上を、懺悔しないではいられなくなりまして。ただ、かように申しましたばかりでは、色々御不審に思召おぼしめす点もございませうが、どうか、兎も角とも、この手紙を終りまで御読み下さいませ。そうすれば、何故、私がそんな気持になったのか。又何故、この告白を、殊更ことごと奥様に聞いて頂かねばならぬのか、それらのことが、悉くことごと明白になるでございませう。

さて、何から書き初めたらいいのか、余りに人間離れのした、奇怪千万な事実なので、こうした、人間世界で使われる、手紙という様な方法では、妙に面はゆくて、筆の鈍るのを覚えます。でも、迷っていても仕方ございませぬ。兎も角も、事の起りから、順を追って、書いて行くことに致しましよ。

私は生れつき、世にも醜い容貌の持主でございます。これをどうか、はつきりと、お覚えなすっついて下さいませ。そうでない、と、若し、あなたが、この無様な願いを容れて、私にお逢い下さいました場合、たださえ醜い私の顔が、長い月日の不健康な生活の為に、二目と見られぬ、ひどい姿になっているのを、何の予備知識もなしに、あなたに見られるのは、私としては、
堪難いことでございます。

私という男は、何と因果な生れつきなのであります。しょう。そんな醜い容貌を持ちながら、胸の中では、人知れず、世にも烈しい情熱を、燃やしていたのでございます。私は、お化けのような顔をした、その上極貧乏な、一職人に過ぎない私の現実を忘れて、身の程知らぬ、甘美な、贅沢な、種々様々の「夢」にあこがれていたのです。

私が若し、もつと豊かな家に生れていましたなら、金銭の力によつて、色々の遊戯に耽けり、醜貌のやるせなさを、まぎらすことが出来たでもありませんよう。それとも又、私に、もつと芸術的な天分が、与えられていましたなら、例えば美しい詩歌によつて、此世の味気なさを、忘れることが出来たでもありませんよう。

併、不幸な私は、何の恵みにも浴することが出来ず、哀れな、一家具職人の子として、親譲りの仕事によつて、其日其日の暮しを、立てて行く外はないのでございまして。

※テキストは、インターネット上の図書

「青空文庫」をもとにして加工しました。